

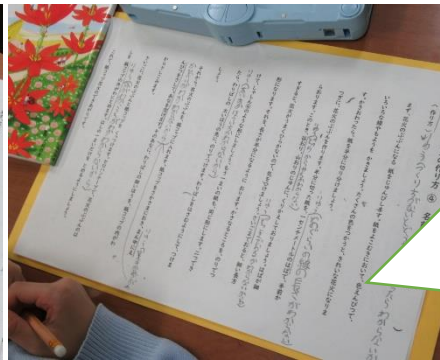
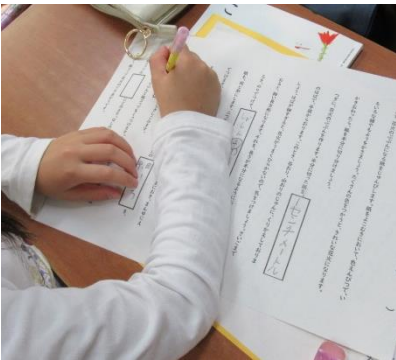
芝久保小学校 研究だより

令和6年12月9日（月）
No.3
西東京市立芝久保小学校
校長 久森 信

低学年実践号

低学年分科会（国語実践）

《低学年分科会 目指す児童像》
これまで学んだことを生かしながら考えをもつ児童



◎指導の個別化のための工夫

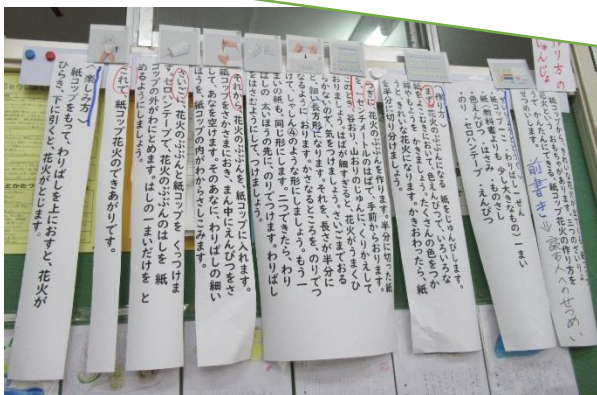
・ワークシートの活用

考えをもたせるために2種類のワークシートを用意し、自分で選んで取り組むことができるようにしました。ワークシートにサイドラインや理由を書いていく中で、自分の考えを整理しようとする姿がたくさん見られました。

◎学習過程の工夫

・語句に着目できる単元計画の設定

本単元の重点目標を「文章の中の重要な語や文を考えて選び出すことができる。」と設定しました。第1時では、言葉での説明がない動画だけを見て紙コップ花火を作り、言葉の必要性を考えること、第3時では、既習を用いて順序を表す言葉に着目させ、筆者の書き表し方の良さを感じさせることに重点を置きました。第4時では、文章中の大事な語や文を選び出すことに重点を置き、児童の考えをもつことの苦手意識に寄り添いながら単元を柔軟に計画しました。



考えをもつことに苦手意識をもっている子も友達と関わり合いながら一生懸命学習に取り組んでいました。

授業中に分かったことがあると元気いっぱい手を挙げる子どもたち。しかし、中には考えはもっているが、あっているか不安でなかなか考えを伝えることができない子もいます。

「自分の考えにもっと自信をもってほしい。」

戸田先生は子どもたちが少しでも自信をもって学習に取り組むことができるよう工夫をしながら授業を進めていました。また、授業中に前に学習した内容を思い出ししながら自分の考えを整理する姿がたくさん見られました。「たんぼぼのちえ」「どうぶつ園のじゅうい」で学習した「順序を表す言葉」や「挿絵の大切さ」を思い出しながら一生懸命取り組んでいました。

「これまでに習ったことを生かせば、自分の考えをもつことができる！ということを感じてほしい。」

戸田先生の思いが子どもたちに届き、主体的に学ぶことができていると思います。

研究授業は研究のためではありません。目の前の子どもたちがどう成長していくのかを皆で確認し、さらによりよい学校教育を進めていく——引き続き、芝久保小学校の子どもたちのために頑張っていきます。